# 占領軍同志社関係資料（2）

## 戦前・戦中期における同志社退職者関係報告書

伊藤　彌彦

### 資料①　GHQ 宛日本政府提出・同志社退職者および関係報告書

GHQ/SCAP Records (RG331, National Archives and Records Service)
(1) Box no. 5704
(2) Folder title/number: (16)
　　Doshisha Daigaku (Kyoto-shi)

1. Name and Location of Institution:

| | |
|---|---|
| Dōshisha Daigaku (University) | Kita-Kōji-machi, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |
| Dōshisha Gaiji Semmon-Gakkō (Coll. of Foreign Affairs) | 〃　　〃 |
| Dōshisha Keizai Semmon-Gakkō (Coll. of Economics) | Iwakura-mura, Atago-gun, Kyōto-shi |
| Dōshisha Kōgyō Semmon-Gakkō (Coll. of Technology) | Monzen-machi, Shokokuji, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |

| | |
|---|---|
| Dōshisha Joshi Semmon-Gakkō (Women's College) | Gembu-machi, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |
| Dōshisha Chū-Gakkō (Middle School) | Okamatsu-machi, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |
| Doshisha Kōtō Jo-gakkō (Girls' High School) | Gembu-machi, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |
| Dōshisha Imadegawa Yōchien (Kindergarten) | Tokiwaidono-machi, Kamikyō-ku, Kyōto-shi |

2. List of all officials or faculty removed etc:

| | |
|---|---|
| Keiji Asano〔浅野恵二〕 (Head of Section of General Affairs) | Retired according to the suggestion of military police. |
| Hachirō Yuasa〔湯浅八郎〕 (Director & President) | 〃 〃 |
| Fumio Hasebe〔長谷部文雄〕 | Retired in connection with "Thought problem" |
| Etsuji Sumitani〔住谷悦治〕 | 〃 〃 |
| Kaname Hayashi〔林要〕 | 〃 〃 |
| Kanesaburō Gushima〔具島兼三郎〕 | 〃 〃 |
| Nobuo Hayashi〔林信雄〕 | 〃 〃 |
| Yōichi Wada〔和田洋一〕 | Retired voluntarily in connection with "thought problem" |
| Takeshi Shimmura〔新村猛〕 | 〃 〃 |
| Shin-ichi Mashimo〔真下信一〕 | 〃 〃 |

| | | |
|---|---|---|
| Yoshio Okada〔岡田良夫〕 | 〃 | 〃 |
| Yahei Motomiya〔本宮彌兵衛〕 | Retired according to the Wartime Emergency Measures | |
| Takaoki Katsuda〔勝田孝與〕 | 〃 | 〃 |
| Saburō Matsuyama〔松山三郎〕 | 〃 | 〃 |
| Rin-yū Wada〔和田琳熊〕 | 〃 | 〃 |
| Keizō Munefuji〔宗藤圭三〕 | 〃 | 〃 |
| Fujisuke Hayamizu〔速水藤助〕 | 〃 | 〃 |
| Tadashi Isihara〔石原質〕 | 〃 | 〃 |
| Terutarō Kikugawa〔菊川輝太郎〕 | 〃 | 〃 |
| Bishō Inoue〔井上美尚〕 | 〃 | 〃 |
| Hiroshi Miyajima〔宮島弘〕 | 〃 | 〃 |
| Tatsuo Tanaka〔田中達男〕 | 〃 | 〃 |
| Itsunosuke Imatani〔今谷逸之助〕 | 〃 | 〃 |
| Minoru Umegaki〔楳垣實〕 | 〃 | 〃 |
| Yoshio Katō〔加藤義雄〕 | 〃 | 〃 |
| Moichirō Maki〔牧茂市郎〕 | 〃 | 〃 |
| Yoshio Satō〔佐藤義雄〕 | 〃 | 〃 |
| Fukujirō Nangoku〔南石福二郎〕 | 〃 | 〃 |
| Genzaburō Hayashi〔林源三郎〕 | 〃 | 〃 |
| Ban-emon Fujita〔藤田萬右衛門〕 | 〃 | 〃 |
| Goichirō Kodama〔児玉瑚一郎〕 | 〃 | 〃 |
| Kikuko Morita〔森田菊子〕 | 〃 | 〃 |
| Minoru Oda〔小田實〕 | 〃 | 〃 |
| Ryūzō Nishimura〔西村鉚三〕 | 〃 | 〃 |
| Shigeji Yamamoto〔山本重次〕 | 〃 | 〃 |
| Yoshihiko Fujita〔藤田義彦〕 | 〃 | 〃 |

| | | |
|---|---|---|
| Toshimasa Wada〔和田利政〕 | 〃 | 〃 |
| Jun Mizuno〔水野純〕 | 〃 | 〃 |
| Tatsuji Okamoto〔岡本辰次〕 | 〃 | 〃 |
| Eisaburō Kuroda〔黒田英三郎〕 | 〃 | 〃 |
| Yaji Abe〔阿部矢次〕 | 〃 | 〃 |
| Ryōichi Kawashima〔川島良一〕 | 〃 | 〃 |
| Jun-ichi Adachi〔足立順市〕 | 〃 | 〃 |
| Kaname Yasuda〔安田要〕 | 〃 | 〃 |
| Seijirō Naitō〔内藤清二郎〕 | 〃 | 〃 |

3. List of individuals appointed or employed etc:

| | |
|---|---|
| Yasuo Andō〔安藤康雄〕 | As successor to Wada, though resigned afterwards |
| Yoshio Katō〔加藤美雄〕 | 〃 〃 〃 Shimmura, though resigned afterwards |
| Sen-ichi Imai〔今井仙一〕 | 〃 〃 〃 Mashimo |

4. Changes made affecting Christian worship & instruction:

In Middle school since April, 1943, and in Girls' High school since April, 1945, religious education was prohibited in the regular curriculum owing to the reform according to the Ministry of Education ordinance, but in both schools they have been conducted as formerly as outside lessons.

5. Acts of Vandalism, destruction or damage etc:

On July 5, 1934, Col. Y. Kusakawa, military officer attached to the University, attempted to expel Mr. H. Yuasa, President of the University,

as he was opposed in opinion against the president, and he instigated a part of students in the preparatory course. He made the students occupy the chapel, where they cried for the expulsion of the president, discharged nuisance, and broke down benches and window glasses.

## 資料②　文部省宛法人同志社提出・教員退職者名簿

「教員退職調ニ関スル件回答」　二〇総甲第一六号　昭和二十年十二月十日

同志社大学設立者

財団法人　同志社

総長　理事　牧野虎次

文部省学校局長

田中耕太郎　殿

教員退職調ニ関スル件回答

本年十一月十四日附発学三二号　表記御照会ニ対シ別紙ノ通リ及回答候也

| 学部 | 担任学科 | 氏　名 | 退職年月日 | 退職理由 |
|---|---|---|---|---|
| 学部 | 独講、行政学 | 具島兼三郎 | 昭一二、八、一二 | 依願解職 |
| 仝 | 商圣、財政学、英講 | 瀬川次郎 | 〃一二、八、一五 | 本社方針ニヨリ解職 |
| 仝 | 商法、英法 | 村井藤十郎 | 〃一二、八、一五 | 仝 |
| 仝 | 英法、民放債権総論及各論 | 林　信雄 | 〃一二、一〇、一六 | 依願解職 |
| 仝 | 英文学、英文学史 | 船橋　雄 | 〃一四、三、三一 | 定年 |
| 仝 | 日本倫理思想史 | 日野眞澄 | 〃一四、三、三一 | 定年 |
| 仝 | 哲学史、哲学特講、独講 | 村岡景夫 | 〃一六、三、三一 | 本人ノ自由意志ニヨリ転職 |
| 仝 | 英書 | 生島吉造 | 〃一六、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 英語 | イー・エス・カーブ | 〃一六、三、三一 | 帰国 |
| 仝 | 英語 | ビー・エフ・シャイブリー | 〃一六、三、三一 | 帰国 |

| 学部 | 担任学科 | 氏　名 | 退職年月日 | 退職理由 |
|---|---|---|---|---|
| 仝 | 教練 | 西田正二 | 〃一七、四、一七 | 本人ノ自由意志ニヨリ転職 |
| 仝 | | 岡田良夫 | 〃一八、五、二〇 | 思想問題ニヨル依願解職 |
| 仝 | 西洋哲学史、哲学特講 | 高田武四郎 | 〃一九、一、一一 | 本人ノ自由意志ニヨリ解職 |
| 仝 | 統計学、農業圣済 | 宗藤圭三 | 〃一九、三、三一 | 文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職 |
| 仝 | 心理学概論、心理学演習 | 本宮弥兵衛 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 英文学特講、英作、英書 | 勝田孝興 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 厚生事業史、文化政策 | 大林宗嗣 | 〃一九、九、二五 | 在職中死亡 |
| 仝 | 商法、演習、圣済法 | 佐藤義雄 | 〃一九、一一、三〇 | 文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職 |
| 仝 | 独書 | 北原春雄 | 〃二〇、六、一九 | 在職中死亡 |
| 仝 | 民法、民債総論 | 南山俊翰 | 〃二〇、九、二一 | 朝鮮ニ帰国 |
| 予科 | 歴史 | 木島誠三 | 〃一二、一〇、三一 | 本人ノ自由意志ニヨリ転職 |
| 仝 | 仏語 | 新村　猛 | 〃一二、一一、二二 | 思想問題ニヨリ起訴サレテルニヨル解職 |
| 仝 | 哲学概論 | 眞下真一 | 〃一二、一一、二二 | 仝 |
| 仝 | 法制、公民 | 徳　武義 | 〃一三、三、三一 | 本人ノ自由意志ニヨル転職 |
| 仝 | 独語 | 和田洋一 | 〃一三、七、二一 | 思想問題ニヨリ起訴サレテルニヨリ解職 |
| 仝 | 心理論理 | 二宮源兵 | 〃一四、一二、三一 | 本人ノ自由意志ニヨル転職 |
| 仝 | 漢文 | 牧野　信 | 〃一五、三、三一 | 依願解職 |
| 仝 | 英語 | 柴山健三 | 〃一五、一一、二八 | 在職中死亡 |
| 仝 | ロ語 | 荒木良造 | 〃一七、三、三一 | 依願解職 |
| 仝 | 独語 | 安藤康雄 | 〃一七、三、三一 | 本人ノ自由意志ニヨリ転職 |
| 仝 | 修身、英語 | 木畑浩四郎 | 仝一七、四、一五 | 在職中死亡 |
| 仝 | 英語 | 速水藤助 | 〃一九、三、三一 | 文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職 |
| 仝 | 独語 | 石原　質 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 数学 | 菊川輝太郎 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 英語 | 井上美尚 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | ロ語 | 宮島　弘 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 東洋史、日本史 | 田中達男 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 哲学 | 今谷逸之助 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 英語 | 楳垣　実 | 〃一九、三、三一 | 仝 |

| 学部 | 担任学科 | 氏　名 | 退職年月日 | 退職理由 |
|---|---|---|---|---|
| 仝 | 仏語 | 加藤美雄 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 自然科学 | 牧　茂市郎 | 〃一九、三、三一 | 仝 |
| 仝 | 自然科学 | 中瀬古六郎 | 〃一九、三、三一 | 依願解職 |
| 仝 | 独語 | 平野　章 | 〃一九、五、三一 | 本人ノ自由意志ニヨル転職 |
| 仝 | | 井上健三 | 〃一九、一一、三〇 | 仝 |
| 仝 | 英語 | 南石福二郎 | 〃二〇、三、三一 | 文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職 |
| 仝 | 法制、圣済 | 林　源三郎 | 〃二〇、三、三一 | 仝 |

**【解説】**

「資料①　GHQ 宛日本政府提出・同志社退職者関係報告」の原資料は、GHQ/SCAP Records (RG331, National Archives and Records Service)

(1) Box no. 5704

(2) Folder title/number: (16) Doshisha Daigaku (Kyoto-shi)

である。

これは現在国会図書館憲政資料室・日本占領資料の中にマイクロフィッシュとして保存されており、そこからコピーすることができた。内容は、戦前・戦中期に法人同志社内の高等教育諸学校から排斥された退職者、日本政府の戦時政策によって退職した教職員のリスト、およびその関連情報である。用紙 4 枚もので英文タイプされているが、いずれの用紙にも右から左方向に漢字で「府政國帝本日大」と印字されたレターヘッドがある。これからみても、日本政府から GHQ 宛に提出された書類であると考えられる。作成年月日は記載されてないが戦後間もない頃のものである。報告書には、1. 同志社諸学校名リスト、2. 離職した教職員氏名リスト、3. 代替された 3 名の教員名、4. キリスト教礼拝・教育に加えられた圧力、5. 蛮行、破壊行為、についての簡単な記述がある。なお離職者氏名をローマ字表記に変えたときの読み間違いもみられるので、掲載に当たっては『昭和拾八年七月十五日　同志社職員録』によって漢字氏名を亀甲括弧〔　〕

内に補っておいた。

「資料②　文部省宛法人同志社提出・教員退職者名簿」は、同志社大学社史資料センターが所蔵している「教員退職者調査ニ関スル件」昭和二十一年「甲一八号　三、二」、で文部省からの退職者調査に対して同志社側から回答した記録である。比較のために掲載しておいた。

両者のリストをみると、退職者総数は両方とも 46 名とたまたま同数であるが、資料①と資料②の両方に氏名が掲載されている退職者は 22 名、資料①のみに氏名があるものが 24 名、資料②のみに氏名があるものが 24 名となっている。中身に関してはいろいろ相違点がみられる。

資料①の GHQ 資料は、退職理由を軍国主義関連の退職リストに限定し、報告対象者には教員以外に少数の職員をふくむ他、同志社専門学校と同志社高等商業学校にまで範囲を広げている。これに対して資料②の同志社資料は対象を大学と予科の教員に限定し、退職理由には通常退職者も含むものであった。

資料① GHQ 資料における 46 名の離職理由は、憲兵の示唆による辞職者 2 名、「思想問題」による解職者 5 名、「思想問題」による自発的退職者 4 名、「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」35 名である。

他方、資料②の同志社資料では、「本社方針ニヨリ解職」2 名、「思想問題ニヨリ依願解職」1 名、「思想問題ニヨリ起訴サレテルニヨル解職」3 名、「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」16 名、「本人ノ自由意志ニヨリ転職」10 名、依願解職 5 名、定年退職 2 名、帰国 3 名、在職中死亡 4 名、となっている。ただ資料②は昭和 12 年から昭和 20 年までをカバーしたものであるにもかかわらず、この間の定年退職者が 2 名である。あまりにも少なく、不自然なデータに思える。

両方に共通していちばん退職人数で多い理由「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」とは、1943（昭和 18）年 10 月 12 日に東條内閣が閣議決定した「教育ニ関スル戦時非常措置方策」によるものである。この

方策は、学校教育の諸機能を縮小するとともに文系学生の徴兵猶予停止を定めたものであるが、そのなかに教職員の退職を促すべく補助金を支給する項目があったことによる。しかし二つの資料を比較すると、資料①が35名、資料②が16名と大差がみられる。これは資料①では、大学、予科、専門学校、高等商業学校までを対象範囲としたのに対して、資料②は大学、予科に限定したためであった。しかし大学、予科に限定してみても、資料②のリストからは、松山三郎と和田琳熊の氏名が欠落している。この点については後述する。

ところで、同志社大学社史資料センターにもう一つ別の資料、昭和19年の「同志社理事会記録綴（理甲）」がある。そのなかの「五月理事会記録　5月31日」に、「文部省戦時教育ニ関スル非常措置方策」実施に伴う退職者宛感謝金贈呈の件、という議題があり対象者28名（教員24名、事務職員4名）とある。

教員氏名としては、大学：小田實、本宮彌兵衛、勝田孝興、宗藤圭三、大学予科：速水藤助、石原實、菊川輝太郎、井上義尚、宮島弘、田中達男、今谷逸之助、楳垣實、加藤美雄、牧茂市郎、専門学校：藤田義彦、高等商業学校：和田利政、水野純、岡本辰次、黒田英三郎、阿部矢二、川島良一、浅野長雄、足立順一、安田要の氏名が記載されている。しかし資料①には浅野長雄の名前はないことも指摘しておきたい。

次に退職理由に注目して2つの資料を考察してみたい。資料①は、筆頭に浅野恵二と湯浅八郎の離職（1937年12月）を挙げ、理由を「憲兵（military police）の示唆による」としている。しかし湯浅八郎は文部省からも軍部からもにらまれていたなかで、同志社予科配属将校草川靖中将の執拗な排斥運動もあって辞任したものであって、憲兵からの示唆を主因とすることは正確ではない。浅野恵二は湯浅とともに攻撃対象とされた事務職員のひとりである。しかし資料②にはなぜか湯浅八郎総長は記載されていない（浅野恵二も記載がないが彼は事務職員）。

資料②の冒頭の 4 人は、法学部内部における右派系教授と左派系教授の内紛、いわゆる「上申書事件」で離職した教員たちである（1937 年 8 月）。上申書事件とは、日本全体が右傾化する空気の時代に、法学部内の右派系教員が同僚の左派系教員の首切りを大学当局に上申したことに始まった。その経緯は迷走の後、大学学長に就任したばかりの大塚節治神学部教授が喧嘩両成敗の案を提出した。つまり上申組の瀬川次郎、村井藤十郎の解雇と被上申組の具島兼三郎の辞表受理と林信雄の内地留学期間満了後の辞表受理の方針を示し、それを 1937 年 8 月 12 日の常務理事会で湯浅八郎総長が決定したものである。その湯浅八郎も同年 12 月に辞職した。

なお湯浅総長辞職の後は、数か月の移行期間を経た後に、1938 年 7 月から牧野虎次が総長事務取扱に就任、1941 年 4 月から正式に総長となり 1947 年 3 月まで在職した。すなわち戦前、戦中、戦後の混乱期を老練な行政手腕を発揮して同志社の組織を守ったのは牧野虎次総長であった。

岡田良夫の離職は、資料①では、「思想問題」による自発的退職、資料②では「思想問題ニヨリ依願解職」となっており理由が一致している。次に予科教授の和田洋一、新村猛、真下真一の 3 名の離職理由についてみると、資料①（これは戦前同志社からの文部省宛報告に基づく）では「思想問題」による自発的退職、となっているが、事実はどうか。かれらの起訴が決まった段階で、大学当局（湯浅総長時代）は留守家族に接触して本人からの辞表提出を促し、それが留置中の本人に伝えられ、不本意ながら迅速冷酷に辞表が集められた経緯が記されている（『同志社百年史　通史編二』pp.1144 以降）。強要された自発的退職であった。この点で資料②の「思想問題ニヨリ起訴サレテルニヨル解職」とする理由づけの方が事実に近い。なお資料①の 3. のリストはこの 3 人の後任者リストで、和田の後任に安藤康雄、新村の後任に加藤美雄、真下の後任に今井仙一が採用されたことを報告している。また資料②によれば、この安藤康雄は昭和 17（1942）年 3 月 31 日に「本人ノ自由意志ニヨリ転職」、加藤美雄も昭和 19（1944）

年3月31日に「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」している。

さて、大学学部と大学予科教授に限定して「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」者を比較してみたとき、資料②からは和田琳熊と松山三郎の氏名が欠落している。前出の1944年度の理事会記録をみると、4月の常任理事会の記事に、38名の依願退職者のひとりに和田琳熊（文学部嘱託講師）の名前がある。しかしこの和田琳熊は、『昭和拾八年七月十五日　同志社職員録』に「名誉教授」として掲載されているから、すでに退職していたとも思われるので実情はよく分からない。

次の松山三郎の解職に関しては、当時文学部神学科教授だった有賀鉄太郎が、戦後こんな事実を書き残している。

「私に〔神学科〕主任をやれということになり、十八年（一九四三）四月からその任に就いたが、やってみて、それが容易ならざる仕事であることを痛感させられた。…たとえば、当時の松山三郎講師のことに関して、それが言える。かれは応召中であったが、昭和十九年七月に本人も黒川大学長も、主任の私も知らないうちに、解職の手続きがとられていた。二十年三月になって始めてそれを知った私は、それを甚だ遺憾として、そのいきさつを調査したが、これは文部省が人文系私学の縮小を計るため、退職金の援助を約束して人員整理を要請したのに応えて、少数の者だけで秘密のうちに行われたものと分った。もとより同志社の立場も苦しいところであった。そこで、私は神学科教授会の意をうけて、総長兼大学長であった牧野先生に、松山君が帰還した上で復職させることを約束してほしいと迫ったが、先生も熟慮の末、それを婉曲に示唆するような文面の手紙を、留守家族にあてて書いてくださった。

松山君が戦地で解職のことを知ったのは、ちょうど遺書をしたためたときだったという。かれは終戦後無事復員したが、ついに同志社にもどってはくれなかった。かれとは今でも親しくしている。けれども、その時のことを思うと心は暗い」（有賀鉄太郎「戦時中の同志社を顧みて」、『同志社

時報』56 号、1975 年、pp. 82～83）と。

総長牧野虎次は、理事会に計らないで独断でこんな解職も行っていたのである。この記事では昭和 19 年 7 月に解職の手続きがとられたとある。しかし『昭和十九年十月起　職員録　庶務課』（『同志社談叢』12 号所収）によると、「松山三郎、出征休暇中、二〇・三・三一退」とあるから、昭和 20 年 3 月 31 日に退職決定がなされたと考えられる。

「総長　理事　牧野虎次」の名で戦後文部省宛に提出された資料②のなかには、おなじ昭和 20 年 3 月 31 日の日付、同じ理由「文部省戦時教育ニ関スル非常措置ニヨル退職」者として南石福二郎、林源二郎の名前が掲載されているが松山三郎の氏名はない。松山三郎の離職は闇に葬られたままである。あるいは戦後も総長職にあった老練な牧野虎次によって意図的に省かれた可能性も高い。

以上、GHQ に提出された資料①は敗戦以前に同志社から文部省に報告した資料に基づくものである。しかしそれから判断すると、戦後同志社から文部省宛に報告された資料②が微妙な相違点をもっていることが分かってきた。

**【付記】**

「占領軍同志社関係資料（1）」『同志社談叢』37 号の【解説】のなかで、スタンフォード大学フーバー研究所所蔵トレーナー文書（Trainor Papers）の複写について伝聞情報を記したが、正確な情報が分かったので訂正しておく。この文書をマイクロフィルムに撮るに当っては、前もって資料整理が必要となった。そのための費用 2 万ドルを明星大学が児玉三夫学長の決断で負担した。マイクロフィルムの作成は国立教育研究所が自費で行い、1 部をフーバー研究所、1 部を国立教育研究所、1 部を明星大学が所蔵している。この作業の中心的役割を果たしたのは明星大学高橋史郎教授と国立教育研究所佐藤秀夫室長であった。「トレーナー文書マイク

ロ化実現の経緯」『占領教育史研究』第 1 号、1984 年、明星大学占領教育史センター、参照。